

〈後援〉平取町立二風谷アイヌ文化博物館 第25回特別展

## 1903年夏の平取

～B・ピウスツキたちの短期調査より～



日時:2019年10月1日(火)～12月1日(日)9:00～

16:30 \*休館日:11/18(月)、11/25(月)

会場:平取町立二風谷アイヌ文化博物館伝承サロン  
(北海道沙流郡平取町字二風谷 55)

後援:ポーランド広報文化センター、本協会

入館料:大人 400 円、小・中学生 150 円(町民は無料)

1903(明治36)年7月上旬～9月19日、ロシア帝室地理協会の委嘱による調査団(プロニスワフ・ピウスツキら3名)が北海道アイヌの調査を行いました。約一週間にわたり滞在した平取コタンでは、地域の撮影や聞き取りを行ったほか、多くのアイヌ民具やアイヌ語音声を集めています。

本展示ではこれら貴重な成果と合わせて、地域住民との出会いや交流を紹介し、明治後半代の平取の姿を来館者と共有します。

また、2018年にはポーランドのジョルイ市博物館とクラクフの日本美術技術博物館“マンガ”館でB・ピウスツキに関する展示会が開催され、本館が協力しました。そうした近年の国際交流の動向も紹介し、ピウスツキが没後100年にもたらした縁と今後にかさすべき教訓を考える機会にもします。

### 関連イベント

①シシリムカ文化大学講座「ピウスツキのロウ管～アイヌ語音声の再生と活用」伊福部達氏(東京大学名誉教授:社会福祉工学)ふれあいセンターびらとり、10月15日(火)18:30～21:00

②シシリムカ文化大学講座「1910年日英博覧会における沙流アイヌとピウスツキ」宮武公夫氏(北海道大学名誉教授:文化人類学)ふれあいセンターびらとり、10月24日(木)18:30～21:00

③平取町立二風谷アイヌ文化博物館 講演と映画のつどい「1903年夏の平取～B・ピウスツキたちの短期調査より」井上紘一氏(北海道大学名誉教授:文化人類学)&ドキュメンタリー映画『Ainu | ひと』上映、沙流川歴史館レクチャーホール、11月17日(日)13:00～16:30

※参加無料、事前申し込み必要(二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892)、申込期限①10月4日(金)②10月11日(金)③11月8日(金)

(長田佳宏、平取町立二風谷アイヌ文化博物館学芸員)  
写真右上:マンガ館一行の二風谷博物館訪問(2017.2)

〈後援〉 〈講演と報告の集い〉

## 子どもの権利条約採択30周年 によせて～日本とポーランド～

日時:2019年11月14日(木)16:30～19:00

会場:札幌学院大学新館 B101、主催:札幌学院大学  
後援/協力:日本ヤヌシュ・コルチャック協会、ポーランド広報文化センター、子どもの権利条約総合研究所  
北海道事務所、東海大学ほか

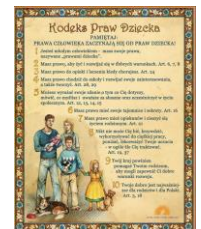
今年子どもの権利条約採択30周年という世界の子どもの歴史の一つの画期といえる年で、国内外で子どもの権利条約の意義を検証する試みが行われています。我が国では、国連の子どもの権利委員会による第4・5回目の最終所見をうけて、子どもの権利条約と子どもの権利擁護の現状と課題について検証が求められています。

本企画では、子どもの権利条約の提唱国であるポーランドから前ワルシャワ大学教授 W・タイス先生を迎え、講演・報告・質疑を通じて子どもの権利に関する施策とその実効性について考えます。

タイス先生には、子どもの権利条約の思想的背景となった J・コルチャックの子どもの権利思想と、現代ポーランドにおける子どもオンブズマン制度について講演いただく予定です。報告では、ポーランド国立特殊教育大学 M・シヴィツキ准教授(メディア教育学)から、コルチャックの著作が書かれたポーランドの時代背景と現代のオンブズマンのメディア利用について、また日本からは、子どもの権利条約を数多くもつ北海道の現状について報告を受けたいと、質疑を行います。

講演会を通して我が国の子どもの権利擁護の仕組みや施策に関して現状と課題を検討し、この機会に道内の子どもの権利に関する関係者のネットワークが広がり、さまざまな実践現場で子どもの権利擁護に関する共同研究が進む契機となることを期待します。

(塚本智宏、東海大学札幌キャンパス教授・本会会員)  
※入場無料、お問い合わせ(塚本)011-571-5111  
(大学代表)、2018tsuka@gmail.com



## ポーリッシュポタリーショップ

松山 莞太

冬にしては珍しい、雨が滴る夜にミュンヘンクリスマス市を訪れた。その一角に、アグニェシュカ・ポヒワさんが運営する、ひとときわ風情のある落ち着いた雰囲気のパワーランド陶器のお店があった。

多くの人を立ち止まらせるその陶器たちは少々黄みがかっており、花や水玉といったカラフルな模様を浮かべている。形は大小様々あり、お茶碗からマグカップ、お皿まで多種多様である。ポヒワさん曰く、日本食から洋食まで幅広いジャンルの料理



に合うという。確かに、カラフルでありつつ落ち着いたお皿は、ゆったりと過ごしたい食事の時間にならどんな料理もマッチしそうで、お寿司やスクランブルエッグなどを乗せても合いそうだ。

この陶器の起源は中世にまで遡る。

ポーランド南部の町で取れた砂を粘土にし、様々な色のついた模様をスタンプにして表面に配置して焼き上げる。この伝統の陶器は昔から受け継がれており、何度か波を繰り返しながら今ポーランドでは再びブームになっているという。ポヒワさんの実家でも使われていたそうだ。

この陶器は丈夫で、オーブン・電子レンジ・食洗機・冷凍庫ともに大丈夫で、実用にも十分耐える作りとなっている。そしてお店では、模様や形の質が良いもののみを取り扱っているそうだ。これから寒くなる季節、このポーランド陶器で家庭の食卓に一縷の温かみを添えてみるのはいかがだろうか。

(まつやま・かんた 2018.12.4)



### ポーランド&ニッポン歳時記 28

#### 猫

我が家の近所に野良猫が何匹か棲んでいます。住民たちが餌をやって養っていますが、最近彼らに小屋まで建ててやりました。これでもう猫たちも厳しい寒さから身を守れることでしょう。

na wielkiej klapie                      ごみ箱の  
śmietnika w środku zimy           蓋に鎮座す  
kot jeszcze większy                  冬の猫  
Monika Tsuda, Poznań                ポズナン市、津田モニカ

krople na szybie                        窓たたく  
deszcz do taktu przygrywa           雨に合わせて  
skrzypiec głosowi                      バイオリン  
Piotr Wrzeciono, Warszawa          ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

うらめしや子持ち 緋くち開けて  
若僧の歳末勤行いきいきと  
熊笹の風除ビュウビュウ鳴りどおし  
岩見沢市、霜田千代磨

### 平取町立二風谷アイヌ文化博物館で今秋

#### 第25回特別展「プロニスワフ・ピウスツキのみた平取」(仮称)を開催

近代のアイヌ文化研究をリードした人類学者のひとりであるプロニスワフ・ピウスツキ(1866-1918)は、1903年の北海道調査などで沙流アイヌと交流し、多くの学術資料を後世に残しました。

本展では、明治後半代を中心とした氏の調査概要や時代背景・地域住民との出会い・収集資料(音声、写真、民具等)の紹介を通して、一連の研究の今日的意義を考えます。また、B.ピウスツキを介して近年活発に行われるようになった二風谷アイヌ文化博物館とポーランド各地の博物館との交流の

成果を広く一般に紹介します。

開催日時は2019年10月1日(火)~12月1日(日)、場所は当館内の特別展会場です。

2019年は日本・ポーランド国交樹立100年の記念の年ですので、当展示でもできる限り、日本語とポーランド語を併記するよう計画しています。

北海道在住のポーランドの方々及び関係者にもぜひご覧いただきたいと思っておりますので、今後とも当館事業にお力添えをよろしくお願いいたします。

(平取町立二風谷アイヌ文化博物館学芸員 長田佳宏)